

施策マネジメントシート

基本施策名	10 高齢者福祉の充実	施策 統括課	高齢者支援課	氏名	馬場一嘉
政策名	4 保健・福祉	主な 関係課	福祉総務課、地位包括ケア推進担当、予防健康担当		

1 施策の目的と指標

対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等

65才以上の市民(高齢者)

施策の目的

高齢者が生きがいを持ち、地域社会を支える一員としていきいきと活躍できるように環境を整えとともに、病気や認知症になっても住み慣れた地域で最後まで安心して暮らせるまちを目指す。

対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 65才以上人口	人
イ	
ウ	
エ	

成果指標(意図の達成度の指標)数字は記入しない

名称(展開方向ごとに記載)	単位
1 ア 75歳以上の要介護認定率	%
イ 自主活動グループ数(活動場所)	箇所
2 ア 高齢者の就労率	%
イ 高齢者の社会参加率	%
ウ 孤立化のリスクが高い高齢者の割合	%
3 ア 高齢者からの新規相談件数	件
イ 市が高齢者の相談や支援を充分に行っていると思う市民の割合	%
4 ア 要介護認定者のうち在宅で過ごす人の割合	%
イ	
カ	

2 第1次基本計画期間(平成28～令和5年度)内における取組内容

施策の展開方向	目的	手段(具体的な取組内容)
1 介護予防と生きがい活動の推進	高齢者が自らの健康管理に努め、予防的な観点を生活に取り入れながら、いきいきと暮らせるように支援します。	・元気な高齢者も対象とした生きがい活動ともなる事業を中心に、介護予防事業を推進します。 ・高齢者の生活や健康の保持について学びあうことができる環境を整えます。 ・高齢者のサロン活動や生きがい就労を支援します。
2 高齢者の支え合い体制の構築	高齢者の孤立を防止し、社会参加を通じて、つながりのある支え合い体制を構築します。	・高齢者の見守り活動等により、元気な高齢者が、周り的高齢者を支える仕組みづくりを推進します。 ・生活支援の基盤としてのシルバー人材センターとの連携を強化します。
3 きめ細やかな生活支援	高齢者やその家族が安心して生活できるよう支援します。	・生活、介護、医療等の相談を総合的に受け、きちんと支援につながるようきめ細やかに対応します。
4 高齢者の在宅療養生活の充実	加齢に伴い、病気や認知症になっても、安心して地域で暮らせるようにします。	・医療と介護、保健が連携した在宅療養の支援体制を整備します。 ・認知症の専門対応と市民啓発を行います。

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値、実績状況把握

			単位	数値区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度					
対象指標	ア		見込み値							17,187	17,266	17,297	17,454	目標達成度				
			実績値	16,523	16,887	17,190	17,437	17,756										
		イ	見込み値												達成・ 未達成	前年度 比較		
			実績値															
	ウ	見込み値																
	実績値																	
	エ	見込み値																
		実績値																
成果指標	展開方向1	ア	%	成り行き値										未達成	低下			
				目標値	32.9	32.5	32.1	31.7	31.3	30.9	30.5	30.1	29.7					
				実績値	33.4	33.2	33.4	34.0	34.4%									
			基本計画における 指標の説明又は出典元		75歳以上の要支援・要介護認定者数 / 75歳以上高齢者数													
			イ	箇所	成り行き値												達成	低下
					目標値	50	55	77	80	83	86	89	92			95		
				実績値	53	74	108	122	113									
				基本計画における 指標の説明又は出典元		市が把握する高齢者の自主活動グループ数												
		展開方向2	ア	%	成り行き値											未達成	低下	
					目標値					26.0			26.0	26.0				
					実績値	25.8(H26)	21.3	-	-	15.0	-	-	-	-				
				基本計画における 指標の説明又は出典元		日常生活圏域ニーズ調査の抽出数(収入のある就労者 / 調査回答者数)												
	イ			%	成り行き値					12.6			17.6	17.6	達成			向上
					目標値					20.9%	-	-	-	-				
				実績値	7.6(H26)	18.1%	-	-	20.9%	-	-	-	-					
			基本計画における 指標の説明又は出典元		日常生活圏域ニーズ調査の抽出数(地域の活動に参加する延べ高齢者数 / 延べ調査回答者数)													
	ウ		%	成り行き値											未達成	向上		
				目標値		6.3			6.0			5.5	5.5					
				実績値	6.5(H26)	15.9	-	-	6.2	-	-	-	-					
			基本計画における 指標の説明又は出典元		日常生活圏域ニーズ調査の抽出数(閉じこもりリスクのある高齢者数 / 調査回答者数)													
		ア	件	成り行き値										達成			低下	
				目標値		3,445	3,455	3,465	3,475	3,485	3,490	3,495	3,500					
			実績値	3,435	3,699	3,963	3,987	3,815										
			基本計画における 指標の説明又は出典元		高齢者からの新規相談件数													
	展開方向3	イ	%	成り行き値											未達成	向上		
				目標値				30.8	36.4	42.0	47.5	53.1	58.7	64.3				
				実績値		25.3	23.1	25.5	26.5									
			基本計画における 指標の説明又は出典元		市が高齢者の相談や支援を充分に行っていると思う市民の割合(国上市市民意識調査)													
			ア		成り行き値												達成	向上
					目標値		80.9	81.3	81.7	82.0	82.2	82.4	82.6	82.7				
				実績値	80.5	79.5	86.1	87.6%	87.7%									
				基本計画における 指標の説明又は出典元		要介護認定者のうち在宅で過ごす人の割合 施設未利用の要介護認定被保険者数 / 要介護認定被保険者数												
		展開方向4	イ		成り行き値													
					目標値													
					実績値													
						基本計画における 指標の説明又は出典元												
事務事業数			本数		44	43	30	27										
施策コスト	事業費内訳	国庫支出金	千円		1,059,087	1,056,810	1,085,000											
		都道府県支出金	千円		759,202	783,184	823,429	21,441										
		地方債	千円															
		その他	千円		2,447,616	2,437,516	2,433,706											
		一般財源	千円		777,489	715,675	1,102,835	149,012										
	事業費計(A)	千円	0	5,043,394	4,993,185	5,444,970	170,453	0	0	0	0							
	延べ業務時間	時間		72,621	71,913	39,939	5,865											
	人件費計(B)	千円		259,102	251,397	122,107	16,802											
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	5,302,496	5,244,582	5,567,077	187,255	0	0	0	0							

4 施策の成果実績値に対する評価

(1) 時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上)～E(かなり低下)

C:成果はほとんど変わらない(横ばい状態)

(2) 他自治体との成果実績値の比較 A(かなり高い)～E(かなり低い)

C:他自治体と比べてほぼ同水準である

背景として考えられること(数値で表せない定性的評価もあれば記載する)

認定率等の統計は概ね横ばい状態である。団塊の世代である昭和21、22、23年生まれの方がまだ75歳に到達していないことが主要な要因であると考えられる。

5 施策の現状 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？

・2025年には団塊の世代が75歳以上となり、3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上となる(国)。今後高齢化が進むと医療と介護を必要とする方がますます増加していくが、現在の医療・介護サービスの提供体制のままでは十分対応できないと見込まれている。

・2025年を目途に病気になっても要介護状態になっても住み慣れた地域で生活が送れるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していく必要がある。

・国の方向性としては高齢化に備えての地域包括ケアシステムにとどまらず、しょうがいや生活困窮など様々な課題を抱える方々が地域でともに生活できる地域共生社会の実現を目指し、「地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律」を施行している。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

・住民からは「今後自分たちに介護が必要となってきたときに、安心して生活できるのか」「認知症になったらどうすればいいのか」という不安の声が寄せられている。

・介護施設と地域の拠点が一本化された運営をしてほしい。

・住民主体の地域のサロンを増やしてほしい。

・住民主体の生活支援事業を実施してほしい。

(3) 施策の取組状況

元年度の取組状況	2年度の取組予定
・H30年度からの介護保険事業計画のPDCAサイクルを引き続き実施した。 ・地域医療計画推進会議を実施した。 ・在宅療養の支援体制を推進した。 ・認知症高齢者見守りモデル事業の実績を踏まえ、同事業を本格実施した。 ・日常生活圏域ニーズ調査を実施した。 ・東2丁目の寄贈地に小規模多機能型居宅介護事業所を整備する事業を公募した。 ・グループホームの家賃等補助を開始した。 ・各種健康づくり事業及び介護予防事業の推進	・第8期介護保険事業計画と第6次高齢者保健福祉計画を一体のものとした「地域包括ケア計画」を策定する。 ・公募により承認された、東2丁目の寄贈地に小規模多機能型居宅介護事業所を整備する事業者と連携し事業所整備を進める。 ・認知症検診推進事業を実施する。 ・各種健康づくり事業及び介護予防事業の推進 ・感染症予防を考慮したうえでの各種事業の見直し

6 元年度の評価結果 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等) 基本的に展開方向ごとに記載

総合基本計画に照らして評価する(目的達成のための事務事業が適切か、事務事業の実施方法は適切か)

○成果実績

展開方向1 介護予防と生きがい活動の推進...要介護認定率についてはほぼ横ばいではあるが、自主活動グループは増加傾向であり、地域包括支援センターによる高齢市民の活動支援が成果につながっている。

展開方向2 高齢者の支え合い体制の構築...日常生活圏域ニーズ調査における地域の活動に参加する高齢者の比率は高まっている。

展開方向3 きめ細やかな生活支援...高齢者からの新規相談対応件数は目標値を上回る水準で推移しており、個別の高齢者の課題については把握が進んでいる。

展開方向4 高齢者の在宅療養生活の充実...要介護認定者のうち在宅で過ごす人の割合は、目標値を上回る水準で推移している。在宅要介護認定者に対する24時間対応の介護保険サービスが整備されつつあることが要因とも考えられる。

○改善余地のある事項・課題等

・国の社会保障審議会介護保険部会では、市町村が策定する第8期介護保険事業計画に対して厚生労働大臣が示す基本指針について災害や感染症対策に係る体制整備の項目を新設しようとしている。このように常に変化し続ける社会情勢に対応するために、情報を的確に把握し、迅速に意思を決定して事業を実施できる体制の整備が課題である。

・また、高齢者人口の増加、制度改正による市町村の事務負担の増大に対応するためにも体制の整備が必要である。

(2) 施策の元年度における総合評価

B	成果実績数値の評価(A～E)に、定性的要素を加味した評価 A: 目標とする成果を挙げており、社会的要請にも十分応えられている。 B: 一定の成果を挙げており、向上・改善の余地がある。 C: 成果向上のため、一層の努力が求められる。 D: 成果に乏しく、改善が急務である。事業の一部に見直しが必要である。 E: 現状の事業では施策の目的を達成することが困難であるため、抜本的な見直しを要する。
---	---

7 施策の課題・今後の方向性 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 3年度の取組方針

・地域包括ケア計画(第8期介護保険事業計画および第6次高齢者保健福祉計画)に基づく施策の展開

・地域医療計画に基づく施策の展開

・国の認知症施策推進大綱と連動した認知症施策の展開

(2) 中期的な取組方針(概ね実施計画期間を想定)

・地域包括ケアシステム構築への取り組みを、ソーシャルインクルージョン(国の言う「地域共生社会」)の実現に向けての取り組みに広げるために多様な主体との連携関係を構築する。